

佐藤 明美 (39) 内藤 納彰 (40)
荒岡 正寿 (41) 川久保成道 (42)
大野 盛雄

鐘ヶ江先生の叙勲を祝う会 盛大に催さる

昭和61年春の叙勲で鐘ヶ江信光先生(元学長、現外語会理事長)が勲二等旭日重光章を授与されたことを機に、先生の永年の学恩を慕う教え子を中心としたお祝いパーティが去る7月11日夜、新宿の京王プラザホテルで催された。

当初、先生は、このような会の開催を辞退されたが、従来、中国語学科関係では、卒業生が一堂に会する機会がなかったこともあり、先生が教鞭をとられた時期の卒業生および若干の友人・知人の方々100名が発起人となって、教え子中心ということで会が準備された。当日は、同ホテル・コンコードホールルーム一杯の200余名の参会者を得て、金丸邦三教授(C32)の開会の辞、金岡照光氏(C25)・赤坂敏子さん(C42)の司会で会が進行した。小川芳男先生や長幸男学長のほか、御友人、教え子代表の祝辞や想い出話、中国語学科近況報告(興水優教授<C33>)、それに北京、上海、香港の卒業生からの祝電・メッセージも寄せられた。この間に、柴田徳氏(C29)の独唱、遠藤武氏(C11)・高野正美氏(C22)の仕舞、安念一郎氏(亜細亜大教授)の京劇語り、「C35グループ」(和田治・榎本英雄・行方光治・中嶋嶺雄)の歌とピアノ、チェロ、ヴァイオリンの演奏などもあり、多くの方々の御協力で楽しい一夜となったことを感謝している。最後に鐘ヶ江先生から謝辞が述べられ、一同感銘のうちに先生御夫妻をお送りすることができた。

なお、当日参加できなかった方のうち約150名から記念品代を頂戴したが、参会者に配布した小冊子「鐘ヶ江信光先生の略歴とお仕事」(先生の御論文「中国語研究六十年——私の学んだ半生——」収録)は、若干の余部があるので、希望者は東京外語大学・国際関係論研究室・中嶋嶺男宛に御連絡ください。(M・N)

雄

日本語を学ぶ外国人の 便利を考えた「西和辞典」 河村 功(S6)

私の尊敬する長年の学友一色忠良氏(小樽商大、神戸外大。現摂南大学教授。昭16西)より本年4月新刊の「西和辞典」ピセンテ・ゴンサレス O.P. 神父・一色忠良共編の一冊を戴いた。研究社や岩波の大英和辞典にも等しい大判、そのすばらしさに驚嘆した。

ゴンサレス神父は来日以來、長年四国松山で布教活動、現在は神戸で生涯を捧げたその道を歩み続けている。同じ松山出身の一色氏とは信仰を通じ、またスペイン語を通じての半世紀の結び付きにより、今回の共編が大成したわけである。

私の驚きは大きさや立派さだけではない。これまでに世に出た幾多の权威ある辞書のどれを見ても日本人が外国語を学ぶためのものと言うべきで、およそ日本語を学ぶ外国人のための便利は考慮されていない。その欠点を除き便利なものにしてよと配慮したのが、今回新刊の西和辞典である。訳読の漢字には一タローマ字で振り仮名が付いている。引例文中の漢字にも必ずローマ字の仮名が付いている。そうした外人向けの細かい配慮をした辞書は、私の知る限り、この辞典くらいのものである。

ゴンサレス神父自身が日本語を覚えるのに当り、身をもって不便を体験した所産であろう。

やがて、21世紀には日本語は世界に通じる言葉になるかもしれないという。だとすれば、日本人向けであることはもちろん、日本語を学ぶ外人にも配慮の行き届いた辞書こそ必要と思う。その意味で今回の共編のご両者の意圖を特に評価したい。

テヘランに眠る

友好に尽くした井上英二氏(H7) 半生を外務省のペルシャ語専門官として日本とイランの友好促進に尽くした元日本イラン協会理事の故井上英二氏(H7、61年1月22日死去)の遺骨が分骨され、本人の遺志でイランの土に

眠ることになり、去る6月17日、テヘラン郊外のレイにある外国人墓地で納骨式が行われた。

式には、イラン駐在大使夫妻や生前親交のあったイラン人多数が参列し、井上氏の次男で在フランス大使館一等書記官の正幸氏(U47)が遺骨の一部を納めた。

紀 央 会 開 催

第4回紀央会は、去る10月3日(金)、18時より、東京神田錦町、新東京ホテルで開催された。

紀央会は昭和25年卒業の各語科合同の同期会である。昭和59年に各語科の幹事と相談の上、1950年卒業、つまり20世紀半ばの真ん中なので、「紀央会」と名付け、毎年10月の第1金曜日に、新東京ホテル(社長・島本 昭・C25)で開催することに決めて、今年第4回の開催となった。

出席者は次の通り。

- (E) 泉、倉林、佐々木、篠田 (A) 菊沢、塚原、長谷川 (I) 中山、宗像 (D) 小林、滝、土手、中村、田中 (P) 荒田、石光、石山、稲垣、井上木村(友)、古茶、千葉、長野、草野 (S) 橋場、森 (C) 飯島、小野沢、児島、小松原、惟野、島本、名取、仲田、平林、松沢 (H) 蛭川、遠藤、佐藤 (Ic) 渥美、市村。

(以上計41名)

なお、今回は来賓として、小川、鐘ヶ江両元学長、川辺、宮城両先生が出席された。(名取)

■ 教務補佐員募集 ■
— 海外事情研究所 —
業務：文書整理、編集事務等
勤務：週2日ていど
曜日・時間は相談の上
給与：大学規定による
連絡：下記①または②へ郵便または電話で
①海外事情研究所
(火・水・金曜のみ)
〒114 北区西ヶ原4-51-21
東京外国語大学内
電話(03)917-6111内線339
②田中治男 電話(0422)48-9039